商業モールにリハ特化デイ

作業療法やメンタルケアも

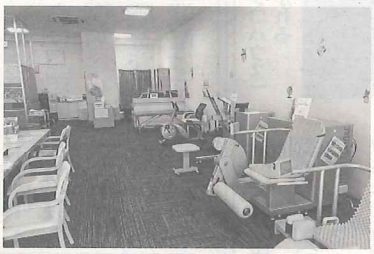
ブルーデイジー（千葉県印西市）は3日、ショッピングモール「ビッグホップガーデンモール印西」内に「リハビリ型デイサービス-Alice-」をオープン。作業療法士として地域包括ケア病棟に十数年勤務していた嶋根健人代表が、身体機能向上にとどまらない、利用者の生活全体を支える地域の拠点を作る。

ブルーデイジー
嶋根健人代表

定員は午前・午後10名で、ターゲット層は、要支援から要介護1～2の人が中心。「利用者が受動的にトレーニングを行って帰るだけのデイにはしたくない」と嶋根代表は語る。自身が有する公認心理士の資格を活かし、利用者の意欲や生きがいなど「心」の部分も支えたいとする。「うつや認知症などの精神的フレイルの予防は重要。また、利用者家族の心のケアも担えれば」と嶋根代表。ショッピングモール内という好立地も生かす。モールと連携し、買い物支援サービスなどの構想も出ているという。

開設にあたっては、デイ開業支援を行うサロンオールディーズ（東京都八王子市）がサポートを行った。同社が展開する4種類のトレーニングマシンを設置。個々の利用者の状況に応じスタッフが疼痛などの評価、可動域訓練なども行う。マシンにはデータ記録機能があり、地域の医療機関への情報共有もスムーズに行えるという。

トレーニングマシンを活用したリハビリに加え、作業療法士である嶋根代表が構築した作業療法プログラムを受けることができるのも特徴だ。病院に勤務していた中で、嶋根代表はOTが地域で活躍できる場所がないことに課題を感じていたという。「OTが病院勤務だけでなく、地域住民の健康やQOL向上を支えることができる地域資源のモデルを作りたいと考え、デイ開設に至った」（嶋根代表）



◀デイの内観：マシンを設置

◀ショッピングモール内の店舗

以前より同市内で市民向けの「健康塾」を開催してきた嶋根代表。既に行政や地域の係構築ができており、開設前の段階で数件契約が完了している状況だという。「市の高齢者福祉課より通所型サービスCの依頼も来ている」（嶋根代表）

◀「不思議の国のアリス」をモチーフとしたインテリアも

ケアマネジャーとの関

ベッドタウンでもある印西市は子育て世代の転入などで人口が増えている一方、高齢化率も毎年上昇しており、今後介護ニーズは高まると予想される。現時点で、今後同市内で1～2店舗の出店を考えているという。「都内での開設も視野に入れ、まずは10店舗展開を目指していく」（嶋根代表）

村田裕之
シニアビジネス相

村田裕之（むらたひろゆき）

87年東北大学大学院工学研究科修
究所等を経て02年3月村田アソシ
2月より東北大学特任教授。わが国
分野のパイオニアで多くの民間企
に参画。高齢社会研究の第一人者と
雑誌への執筆も多数。著書に「成功
ネスの教科書」（日本経済新聞出版社

私たちは一般に高齢になるにつれ新しいことに取り組むのがおっくうになります。一方で、高齢期でも新たなことに取り組み、活動的に過ごす人も目につくようになってきました。

81歳でiPhoneアプリ「hinadan」を開発し、米アップルのティム・クック最高経営責任者（CEO）から「世界最高齢のアプリ開発者」と紹介された若宮正子さんは87歳。日本最高齢のフィットネスインストラクターとして活躍中の瀧島未香さんは91歳です。

60代は新たな挑戦のチャンス

若宮さんがパソコンを始めたのは定年退職後です。人とおしゃべりをするのが好きな彼女は当時流行り始めていたパソコン通信を始めるためにパソコンを習ったといいます。

瀧島さんもスポーツジムに通い始めたのは65歳。70歳で水泳を始め、72歳でマスターズの水泳大会に出場し、クロールと平泳ぎで大会新記録を獲得しています。さらに74歳からフラダンスを始め、78歳からヒップホップ

心理的報酬がモチベーシ

マー」一日本最高齢のフィットネスインストラクター」という「世界（日本）最高齢の○○」で注目を浴びている点です。

陸上競技などでは高齢になるにつれ参加者が限られるため、「70歳以上の部で世界記録」といった例が少なくありません。つまり、普通の高齢者ならまだ誰もやっていない「ニッチな分野」で活躍しているのです。

年金生活ができる高齢者にとっては多額の金銭報酬より、他人に認められたり、社会的注目を浴びたりする「心理的報酬」の方が、継続のモチベーションが上がりやすい傾向があります。

つまり、「高齢者なのにここまでやるのか」と思わせる活躍の場を見つけだすことが継続の大きな動機となっているのです。

定年退職を機に、自分がやりたいと思うことで、高齢だと注目される分野で一歩抜け出す活動を行うのが秘訣と言えます。

▲若宮
アプリ

くソフトウェアの研究開発などを行うエヴィクサー（東京都中央区）は9月27日、奈良県磯城郡三宅町と連携協定を締結。同社の「音響通信によるあんしん通知システム」を活用し、三宅町が行う高齢者、障害者の自宅訪問サービスを安心して利用してもらう体制を整備する。

具体的には、▽音に反応してパトランプや文字で訪問サービスの到着を知らせる▽町役場のサービスであることを知らせる――などの実現を目指すという。まずは、同町が行う高齢者や障害者に提供する訪問ごみ収集サービスにて実証実験を

三宅町では、三宅町総合計画において「やすらぎのある地域づくり」「安心・安全な環境の整備」を掲げ、ICT技術の活用により町民向けの行政サービスの充実化を目指している。エヴィクサーでは独自開発の音響通信技術を社会実装し、全国の映画館でのバリアフリー上映を実現してきた。同社の音響技術は、エンターテイメントにとどまらず広く行政サービスにも展開できると考えていたという。同社のシステムを行政サービスに組みこむことで高齢者や視聴覚障害者の生活の向上を図るべく、協議を進めていくという。